

# 佐田伝統文化保存会

## すてな踊りを復活し、地域に活気を！



事務局長 町野 芳信さん  
会長 中道 健三さん

### 「すてな踊り」の復活で 納涼盆踊りを盛り上げる

美浜町東部に位置する佐田地区で、地域の伝統文化を守り伝える多彩な活動に取り組んでいるのが、「佐田伝統文化保存会」です。  
当保存会が結成されるきっかけとなったのが、「すてな踊り」の復活です。「すてな踊り」は敦賀市から若狭町三方地域に伝わる踊りで、江戸時代中期以来の歴史があります。佐田地区では、毎年8月13・14・17日に開催される納涼盆踊りで「すてな踊り」を踊り、先祖の霊を供養するのが習わしと

なっています。近年は担い手不足により音頭取りの生歌や太鼓の生演奏を休止せざるを得ない事態となっていました。「やむなくCDを流して踊っていました。昔のすてな踊りを復活させ、納涼盆踊りを盛り上げたいと有志が集まり、平成25年4月に当会を発足しました」と会長の中道健三さんは話します。



揃いのTシャツですてな踊りを踊る区民

### 3日間で720人が参加、 外国人にもPR

まずは若い人に呼びかけ、太鼓の叩き方や音頭を伝承。現在は、20代の音頭取り2名、高校生、専門学生、社会人の太鼓叩き7名が参加しています。「若者が加わることで若い世代に伝承意識が芽生え、納涼盆踊りの活気が蘇ってきました」と話すのは、事務局長の町野芳信さん。「活動を始めた当初は会の存在が知られていませんでした

が、徐々に名前が浸透し、婦人会や青年会、地域のサークルとも連携した活動ができるようになってきました」。祭りを彩る灯籠づくりやアルミ缶の風車づくりでも区民に声をかけ、地域一丸となって納涼盆踊りを盛り上げました。活動を開始して以降、納涼盆踊りへの参加人数は徐々に増え、6年目の今年は3日間で720名が参加し、大盛況に。さらに今年は近隣にホームステイしている外国人にも英語版のチラシを配ってPR。ブラジル人も「すてな踊り」に参加するなど、インバウンドを意識した活動も展開しています。

### リーダーが中心となり、 多彩な活動を展開



家族での参加も多かったしめ縄づくり

立ち上げた当初は15名だった会員は現在42名。9名の役員が中心となり、会員と区民が力を合わせて、多彩な活動に取り

組んでいます。伝承料理の食事会もその一つ。どろろ（鯖ぬた）、芋ごはんなど、家庭で作る機会が少なくなった料理を作り、区民に味わってもらっています。そのほかにも、年末のしめ縄づくりや吊るし柿体験、防空壕跡見学、座禅体験、県外転出者への情報提供など多彩な活動を展開。取り組みごとにリーダーを決め、組織力とチームワークを発揮することで、年間を通じて多岐にわたる取り組みを実現しています。  
「昔はこんなことがあったな、と思いきやい出しながら、企画に取り入れていきます」と話す中道さんと町野さん。自分たちが体験してきた地域の伝統文化を、生き生きとした活動で次世代に伝えていきます。



佐田伝統文化保存会役員の皆さん

（お問い合わせ）

● 佐田伝統文化保存会事務局

TEL 080・8695・1440